

## ● 授業概要

学術英語講読は、3年次、4年次に英語による資料や専門書を読むための読解力をつける授業です。学生は自分の関心に応じて様々な分野の8人の教員から1人を選び、少人数クラスで英文読解の訓練を受けます。私のクラスではアメリカ研究の事典を教材に、受講生がみな毎回参加する精読を行っています。

米山正文 准教授



# Welcome to 授業

## 国際学部 学術英語講読 Academic English Reading

### ● 教員から

● 英語の専門書や資料を読む時は正確に内容をつかまないといけないので、私の授業は「地道に英語を読んで、訳し、正確に意味をとる」ということの訓練の場にしてと思っています。アメリカの文化や歴史に関する百科事典を教材にしていますが、国際学部の学生はいろんな国の文化や社会のことを知りたいという学生が多いので、英文をただ訳すだけではなく背景にある文化などの話も織り込むようにしています。

日本と密接な関係にあり、多くの影響を受けているアメリカの文化を学ぶことは、日本や自分自身の姿を見直すためにもいいかもしれませんね。今の若い人は親の世代のようなアメリカへの特別な思いはないのかもしれません。でも、それが普通なのかなという気がします。アメリカを特別扱いしないで、その他大勢の一つとして客観的に距離を置いて見ることができるようになってきているのかなと感じています。

### ● 学生から

● 中国に興味があって3年生の時に1年間上海に留学しました。中国だけではなく様々な国の人たちと出会う中で英語が世界の共通語であるということに身にしみて感じました。もともと英語は苦手、留学をきっかけに英語の勉強、特に英語の文章を構造的に見ていくことや文法に

注意しながら文章を読むことの大切さに気づきました。帰国後、「学術英語講読」を選択する時に自分の学びたいものと米山先生の授業内容が一番合っていると考え、先生の授業を選びました。ちょっと遅くなってしまいましたが、英語を本格的に勉強しようと思っています。



国際文化学科4年  
飯山ももこ



国際文化学科2年  
伏田真季

● 学術英語講読は先輩から「学術論文の長文読解があるので授業についていくのが大変」と聞いていたので、少しでも内容的に興味を持てる授業を選ぼうと思いました。前期に受けた米山先生の「アメリカ文学史」の授業が面白かったので、引き続き先生の授業をとることに決

めました。先生は学生の質問にも真摯に対応して下さいますし、ユーモアもある方なので授業を受けていても楽しいです。教材の学術文献は文学書と違って事実が淡々と書かれていますが、自分の知識と照らし合わせながら読んでいくことで理解が深まっていくことを感じます。



国際社会学科2年  
長谷沙樹

● もともとアメリカに興味があったので、英語で話せるようになりたいと思っていました。予習をしないと授業についていくのが大変なのですが、その分、学ぶことも多いと感じます。(ファストフード、ショッピングモール、セレブ、ディズニーランドなど) あまり読むことがな

かった題材なのですが、幅広いテーマを扱いますので飽きがこないし、応用的なことを学べます。英単語も今までは辞書の最初に出てくる意味ばかりで捉えていましたが、アメリカ人にしか分からないような意味があることも学べ、新しい発見があります。

